

事業報告書

2024 年度

自 2024 年 4 月 1 日

至 2025 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人

アーユス仏教国際協力ネットワーク



【中期計画の5本柱】(2022-2024)

1. 社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力NGOをめざす。

●2024年度方針

仏教者・NGO・市民をつなぐハブとしての実績の周知を図り、アーユスが相談先として認知されるよう努めます。引き続き国内外で自然災害や紛争が起きた時の支援を受け入れる窓口として、NGO など市民グループの情報収集を行い迅速に動ける体制づくりを進めます。また NGO と寺院がそれぞれの知恵や資源を活用しあえる取り組みを実施します。

●2024年度報告

2024 年度はアーユスとして新たに自然災害や紛争への対応がなく、緊急支援を行う体制づくりも着手しなかった。アーユスの期待する活動をおこなう団体との縁をつくるために、リサーチを重ねる必要がある。

2. 不当な支配や抑圧、格差、差別、紛争、人権侵害などから困難を抱える人たちの中でも、特に光が当たっていない人たちや課題に光を当てている活動や、活動している人たちを応援する。

●2024年度方針

アーユスの NGO 支援事業がめざすところが NGO と共有され、より強固なパートナーシップが築けるよう努めます。

セミナーの開催など共同事業を行うことで、少しでも多くの人たちに光が当たるよう取り組みます。

●2024年度報告

支援事業の説明会を開催したことにより認知度が高まり、NGO 支援事業への申請件数が増えた。社会課題を改善する取り組みへの協力と、取り残される人に光を当てる協力が NGO 支援事業の2つの軸となっているが、どのような活動を支援したいのか、それぞれの支援事業が目指すところの理解を広めることは十分にできていない。

ガザ危機などの紛争課題に対して、アドボカシーなど含めて以前ほど関わっていない。

3. アーユスに関わる人たちをつなぎ、共に思考が揺さぶられる多様な視点を持てるよう、情報発信や交流を増やす。

●2024年度方針

2023 年度に引き続き、オンラインや対面でのセミナーやイベント、ウェブなどの媒体を活用した情報発信、交流を行います。

アーユスの NGO 支援事業と連動しながら、NGO と宗教者のネットワークを生かして次の視点から取り組みます。

①時局に応じた課題を取り上げ、現場に近い人たちや研究者などの視点を織り交ぜながら、小規模でも意義のある活動につながるよう働きかける。

②メディア的にも注目が集まりづらくなった課題で、特にアーユスがこれまで関わったものに光を当てる。

③上記のような課題を生み出す原因や社会の仕組みについてフォーカスし、改善に向けた取り組みを知り私たち自身の暮らしを振り返る機会を作る。

●2024年度報告

セミナー・イベントは、様々なテーマを網羅して、従来のメーリングリストのほかイベント広報のプラットフォームを使った自動的な広報なども浸透して、新たな参加者／リピーターは増えている。開催が一定の時期に集中してしまうため、より計画的に開催して多くの参加を得る必要がある。

ウェブや紙媒体を通じての情報発信は不十分だった。交流活動は、関西地域で1回実施したのみだが、東京では総会やアーユス賞授賞式を活用した対面事業が有意義な交流の場になった。

①専門委員など多様なリソースが身近にいるにもかかわらず、時局に合わせたセミナーなどをタイミングよく開催するにいたらなかった。ガザが注目されるなかで、NGO と共催、専門委員の協力も得ながらパレスチナ・西岸地区についての緊急報告会を実施できた。

②アフガニスタン、ミャンマーなど、あまり注目されなくなってきた地域についての発信をパートナー団体とおこなった。『街の灯』トークは「いのちに光をあてる」と題して5回連続で開催した。

③ジェンダーワークショップを開発教育協会の主導のもと、仏教関係グループでも実施。また災害と水シ

リーズで、災害時の備え（知識も含め）を水利用から考えるセミナー、パワーシフト・キャンペーンによる「HOME プロジェクト」に協力した。

その他、ファンドレイジングを意識した年度末企画として、「哲学対話」に取り組んだ。思考が揺さぶられる機会を様々な人と体験できた。

年次報告書は発行したが、ニュースレターの発行が滞っている。支援者への報告としても、講座などをアーカイブしていくことが望ましい。

4. より多くの「光が当たらないところ」に光を当てるために、寄付先や連携先としての信頼度を高め、アーユスの活動資金の安定化を図る。

●2024年度方針

アーユスに協力する方法を明確に提示し、多様な方法でアーユスに協力してもらえるよう働きかけます。30周年の実績をまとめて、それをもとにアーユスの原点と展望を示し、対面の機会も増やしてさらなる支援を募ります。

●2024年度報告

450万円の赤字。そのうち300万円は指定寄付の繰越を使ったが、さらに300万円の指定寄付があった。恒常的な寄付の呼びかけが課題。

「物でお布施」は、書き損じハガキに焦点をあてて呼びかけたところ反応がよかった。新たに参加した寺院からも「物でお布施」のチラシを求められたりするので、ハードルの低い参加方法として期待できる。

5. 次世代の仏教者や市民がアーユスの担い手となる仕組みをつくる。

●2024年度方針

役員と事務局の共同体づくり注力します。また次世代が参加できるような仕組み作りを引き続き行います。

●2024年度報告

役員とのコミュニケーションを十分に取ることができなかった。次世代の参加を模索しようと、大学講師などとも意見交換をしたが、まだ具体的な案は出ていない。

2024年度を振り返って

2024年度は、これからのNGO支援事業の基盤ができた一年でした。下記の4つが柱となりました。

【問題の根源に取り組む】

NGO ソーシャルチェンジ支援 社会的に弱い立場に立たされた人たちが取り残されないように、社会構造の是正に取り組む活動を支援します。

【継続して関わり続ける】

『街の灯』支援 光の当たらない課題や人たちに光を当ててサポートする活動を支援します。

【緊急時に対応する】

時局対応支援 頻発する自然災害や、戦争や紛争で引き起こされる人道危機に対しての救援活動や、その状況を改善する活動に協力します。

【経験を次世代に繋ぐ】

アーユス賞 これまでのNGO活動の中で次世代に引き継ぐべき功績を残した方、アーユスを多方面から支えてくださった方、これからのNGOを支えていくことが期待される新人を表彰します。

設立から30年経った今も、戦争は各地で終わりをみせず、経済格差は先進国と途上国の間だけでなく日本国内でも広がり、気候変動は着実に進み健康や経済に影響を与え、災害や紛争が引き起こす人道危機に対する支援も常に求められています。しかし問題の構造はより複雑になり、また情報源も多様化して、使命感や高揚感も多くの人と共有しづらくなってきている面があります。

このような状況だからこそ、アーユスは限られた資源を有効に役立てようと、山積する社会課題の中でも特に光が当たらない（社会的に注目されない、資金が集まらないなど）課題に光を当てることに注力しています。緊急時には明日を生きるための支援に、社会の関心が少なくなっても残り続ける課題への取り組み、社会課題の原因を取り除こうという活動、それぞれに協力する体制を作りました。

研修・ネットワーク事業では、多様な社会課題をとりあげて議論できる場をつくることを心がけました。

年度末に開催した哲学対話「戦争・いのち・平和」では、参加者から「問い」を募り「やられている側の反撃としての暴力をどう考えたらよいのだろうか？」ということ、それぞれが自分自身の言葉で考える時間を持ちました。自分の考えに近い情報ばかりを取り入れがちな昨今、必ずしも同じ意見でなく、異なる考えを持っている人と時間を共有することができたのは、貴重な体験でした。

組織運営では、寄付金収入が伸び悩み、450万円の赤字になりました。大きな自然災害・紛争への緊急指定寄付を呼びかけがなかったのが影響したこともあり、アーユスが目ざす活動を明確に訴えていく力がまだ弱かったとも言えます。

支援事業の基盤が整った今、今後はそれをベースにして、アーユスと共により平和で安心して暮らせる現在と未来をめざす仲間を増やすよう努めていきます。

1. 国際協力等を行うNGO・市民団体への助成・研修・表彰等の支援、及び紛争・災害時の緊急救援（NGO支援事業）

2024 年度支援先一覧

	1 年目	2 年目	3 年目
ソーシャル チャレン ジ	紙製品を取り扱う日本企業に対する調達方針の策定と人権 DD の実施に向けた働きかけ 熱帯林行動ネットワーク		
街の灯 支援	レバノン山間部の難民キャンプにおける脆弱な子どもたちへの学習支援 パレスチナ子どものキャンペーン 高校生奨学金プロジェクトー私たちはあなたを見捨てない 反貧困ネットワーク	非正規滞在家族の正規化に向けた取り組みおよび生活支援事業 ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY グアテマラ農村部での子どものための土曜学級 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク	日韓みらい若者支援 アジア・コミュニティ・センター21 ふくしま移住女性エンパワメント・プロジェクト 福島移住女性支援ネットワーク
時局 対応	【一般】 ・原発再稼働への対応 FoE Japan ・スーダン南コルドファン州 大規模戦闘下での緊急種子配布による食料安全保障 日本国際ボランティアセンター 【指定】 ・ウクライナ支援 チェルノブイリ救援・中部 ・能登半島地震 パルシック／みんなでほっこり安楽寺 ・パレスチナ 日本国際ボランティアセンター／パレスチナ子どものキャンペーン ・トルコ・シリア パルシック		

1) NGO 組織強化支援

2024 年 3 月にて終了。

▼報告

2023 年度で支援が終了した「JFC ネットワーク」については、オンラインでの報告会を開催。アーユスの協力でファンドレイザーを雇用し、会員向けアンケート調査を実施、会費の改定や、クレカ決済を導入。会員とより細かなコミュニケーションが取れるよう

になるなど、ファンドレイジングの基盤が整った。今後はファンドレイジングの計画をどう実践していくかが課題となる。

- ・組織強化支援報告会
- ・「組織強化支援」の振り返りは 25 年度に持ち越し。

2) NGO ソーシャルチェンジ支援

様々な社会課題の根本的な解決をめざして、市民の

力で社会の構造や仕組みを、より社会的な弱者の視点に立った持続性のあるものへと変えていく活動に協力する。

▼報告

- ・「紙製品を取り扱う日本企業に対する調達方針の策定と人権 DD の実施に向けた働きかけ」熱帯林行動ネットワーク (JATAN) への協力開始
- ・JATAN のセミナー開催
- ・アーユスの「NGO 支援事業説明会」を開催
実施日：8 月 2 日／8 月 8 日の 2 回
- ・2025 年度からの支援対象事業の申請を受付と選考。

3) 『街の灯』支援

誰一人取り残さない社会をめざす「持続可能な開発目標 (SDGs)」の概念を尊重し、日本の国内外で「光があたらない」活動に取り組む NGO／NPO に協力する。

▼報告

2024 年度より次の 2 事業を新たに協力開始。

- ・「レバノン山間部の難民キャンプにおける脆弱な子どもたちへの学習支援」パレスチナ子どものキャンペーン
 - ・「高校生奨学金プロジェクトー私たちはあなたを見捨てない」反貧困ネットワーク
次の 4 事業は 2023 年度から継続して協力。
 - ・「非正規滞在家族の正規化に向けた取り組み及び生活支援事業」Asian People's Friendship Society
 - ・「グアテマラ農村部での子どものための土曜学級」日本ラテンアメリカ協力ネットワーク
 - ・「日韓みらい若者支援事業」アジア・コミュニティ・センター 21
 - ・「ふくしま移民女性エンパワメント・プロジェクト」福島移住女性支援ネットワーク
- 2025 年度からの支援対象事業の申請の受付と選考。

4) 時局対応支援事業

国際協力 NGO が紛争や自然災害時に、被災地での救援・復興活動を迅速にかつ円滑に進められるよう、資金面や物資調達などにおいて支援を行う。また国際協力活動を進めるために必要と思われる提言・キャンペーン活動の実施にも協力する。

▼報告

【一般】

- ・「原発再稼働への対応」原発避難計画に関する検証

や使用済み核燃料をめぐる問題提起を柱とした原発再稼働への対応に関する活動 (FoE Japan)。

- ・「スーダン南コルドファン州 大規模戦闘下での緊急種子配布による食料安全保障」(日本国際ボランティアセンター)

【指定】

<トルコ・シリア地震>

- ・「トルコ・シリア地震で被災した女性世帯への食料配布事業」(パルシック)

<ガザ緊急>

- ・「現地 NGO による子どもと妊産婦を対象とした栄養支援並びに現金給付」(日本国際ボランティアセンター)
- ・炊き出しと水の配給 (パレスチナ子どものキャンペーン)

<ウクライナ>

- ・「戦争による被害を受けたウクライナの子どもの支援」児童創造センターのコンベクター (エアコン) 等の設置や外来病院の医薬品等の調達に活用 (チェルノブイリ救援・中部)

<能登半島>

- ・「輪島市重蔵神社における能登地震被災者への物資配付事業」(パルシック)
- ・「みんなでほっこり安楽寺」(人形劇団結び座がやってくる実行委員会)

その他

- ・ミャンマーのアクションには引き続き協力を実施した。
- ・国内災害支援等に関する会員寺院や NGO 等の動きについて、メーリングリストや一斉メールを活用した情報収集・発信は部分的に行った。
- ・救災マップ及び備災ガイドの広報への協力は行わなかった。
- ・緊急救援に動く団体を把握し、緊急時に迅速に対応できる体制の整備は進まなかった。

5) アーユス賞

日本の国際協力 NGO 活動で多大な功績のあった NGO 関係者に NGO 大賞 (茂田賞)、今後の国際協力 NGO 界を支えていくことが期待される有望な人材に対して NGO 新人賞、仏教の縁に基づいた国際協力や地域作りを志しアーユスの活動に対する多大な貢献や協力があつた寺院もしくは個人に対して特別功労

賞を授与する。

▼報告

【NGO大賞】村井雅清氏（被災地NGO協働センター顧問）

【特別功労賞】源由理子氏（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科・教授）

【NGO新人賞】松尾沙織氏（シェア＝国際保健協力市民の会）、松川清美氏（開発教育協会）、吉田明子氏（パルシック）

- ・授賞式：2月27日（本立寺、東京都品川区）オンライン配信とハイブリッド開催
- ・財源：コングラントを活用してのクラウドファンディング
- ・結果：計83名から約102万円の寄付

2. 国際協力及び社会貢献などに関する広報、普及啓発、教育研修及び相互交流（研修・ネットワーク事業）

1) 研修・研究・啓発

▼報告

総括は、方針3を参照。

- ・アユスにつながる宗教者との連携は少ないままだったが、多様なNGOと共催することで、幅広いテーマを扱うことができた。
- ・セミナーは開催しているが、参加者以外の支援者や一般に対してそれを伝える文字媒体等での情報発信が手薄であることが課題。

（1）セミナー/勉強会/交流会

共催の依頼が多く、支援事業の報告会以外の自主開催が少なかった。ただし、共催することでセミナーの内容と参加者層に厚みが出てきている。特に課題を生み出す原因や社会の仕組みについて、継続的に考えて

いくことを念頭に置いており、能登半島地震の経験を学びと教訓につなげられている。

①時局に応じた課題を取り上げ、現場に近い人たちや研究者などの視点を織り交ぜながら、小規模でも意義のある活動につながるよう働きかける。

●共催

【緊急報告会】「ガザ停戦」後に激化しているパレスチナ・西岸地区での暴力

報告者：フアッド・アブサイフ氏（UAWC 代表）

通訳：今野泰三さん（中京大学教授、アユス専門委員）（3/4）

共催：NPO 法人 APLA、株式会社オルター・トレード・ジャパン

②メディア的にも注目が集まりづらくなった課題で、特にアユスがこれまで関わったものに光を当てる。

●主催（実施日／タイトル／登壇者）

『街の灯』支援セミナー		
5/16	「モザンビークで平和といのちを守る～スラムで実践する紛争被災者支援と平和教育活動～」	榎本恵さん（一社モザンビークのいのちをつなぐ会）
5/23	「水俣病患者ではない私たちが、その経験を受け継ぐということ ～相思社の「聞き取り」から見えてきたこと～」	永野三智さん（一般財団法人水俣病センター相思社）
組織強化支援セミナー		
8/19	「JFC の子どもたちが尊厳を失わずに生きていける社会とは ～30年のわたる JFC ネットワークの活動から見えてくるもの～」	伊藤里枝子さん（NPO 法人 JFC ネットワーク）

アーユスセミナー		
10/10	アフガニスタンでの「地下教育」 ー取り囲む壁、 超えて放たれる光	小野山亮さん・加藤真希さん（一般社団法人平和村ユニテッド） 藏田明子さん（大東文化大学国際関係学部 非常勤講師／行政管理研究センター 研究員）
『街の灯』トーク		
2025 /1/31	「チェルノブイリ原発事故からウクライナ危機」	河田昌東さん（NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部）
2/7	「水俣病患者・家族の声から聞こえてきたものー『豊稔の浜辺から』を編んで」	坂本一途さん（一般財団法人水俣病センター相思社）
2/13	「レバノンに暮らすパレスチナ難民の女性たちと伝統刺繍」	松田純子さん・山本智子さん（NPO 法人パレスチナ子どものキャンペーン）
2/17 ・3/10	「在日コリアンとして生きる」	郭辰雄さん（NPO 法人 코리아 NGO センター）
2/20	「スーダン 終わらない内戦の中で」	今中航さん（NPO 法人日本国際ボランティアセンター）

●共催（実施日／タイトル／会場／共催団体）

8/3	ミャンマードキュメンタリー映画『地の上、地の下』上映会&トーク	アミダステーション（八王子市）	メコン・ウォッチ
8/17	ミャンマードキュメンタリー映画『地の上、地の下』上映会&トーク	常圓寺（東京都新宿区）	メコン・ウォッチ ロータス・シネマ
8/29	平和への光を ～アジアの片隅で続く紛争と日本の市民活動	オンライン	ジュマ・ネット
2025/2/1	読書会 クーデターから4年、ミャンマー文学と祈りの夕べ	見樹院（東京都文京区）	#ミャンマー軍の資金源を断て

③課題を生み出す原因や社会の仕組みについてフォーカスし、改善に向けた取り組みを知り私たち自身の暮らしを振り返る機会を作る。

●主催

総会セミナー「私たちが使う紙製品の知られざる実態とは？ インドネシアの人権や環境問題から考える」

登壇者：中司喬之さん（熱帯林行動ネットワーク）

日時：2024年6月13日 会場：長専院（東京都江東区）

●共催

「シリーズ能登半島地震に学ぶ災害と水」		
企画・実施：石山民子（アジア砒素ネットワーク）／枝木美香（アーユス仏教国際協力ネットワーク）／笹川みちる（雨水市民の会）／保屋野初子（地域水道支援センター）／三村紀美子（石川県七尾市在住・民生委員）		
4/18	1回目 雨水活用術	高橋朝子さん、笹川みちるさん（雨水市民の会） ／三村紀美子さん（石川県七尾市在住・民生委員）
7/5	2回目 水道に何が起きたのか？	登壇者：辻谷貴文さん（全日本水道労働組合副中央執行委員長、水情報センター事務局長）／三村紀美子さん（石川県七尾市在住・民生委員）

10/29	3 回目 住んでいる場所のことを知ろう！	長谷川怜思さん（八千代エンジニアリング(株) 地質・地盤部）
連続セミナー「ミャンマーからの声を聞く」 共催：「#ミャンマー軍の資金源を断て」キャンペーン、プログレッシブ・ボイス		
5/18	第 4 回「危機を切り抜ける もっとも弱い立場の人たちに人道援助を届けるためには」	クニョーポーさん、アデリーナ・カマルさん
7/25	第 5 回「追い詰められるロヒンギャ 終わらない迫害」	トゥンキンさん
10/3	第 6 回「若者とデジタル・フリーダム 前線からの声」	ズイーピーさん（アタナー表現の自由のための活動家団体）、チーニェインさん（ビルマのクィア・オルタナティブ）
12/12	第 7 回「危機から希望へ ミャンマーで連邦制の未来を築く」	キンオーンマーさん（プログレッシブ・ボイス）、パニャークンアウン氏（カレンニー州暫定執行評議会第二書記）
#ミャンマー軍の資金源を断て オンラインセミナー		
2025/1/27	「日本からミャンマー軍への資金の流れ、今どうなっているのか」	木口由香さん（メコン・ウォッチ）

●協力

つくろい東京ファンド断熱 DIY 報告会（3/21）

登壇者：鈴木国男さん（元空調技術者）、稲葉剛さん（つくろい東京ファンド）、田淵透さん・吉田明子さん（FoE ジャパン）、枝木美香

主催：パワーシフト・キャンペーン運営委員会

（2）研修

・NGO 向けの研修

NGO が抱える課題改善、能力強化やネットワーク拡大につながる勉強会は実施できなかった。

研修ではないが、NGO 支援事業の説明会を二度にわたり開催し、アユスの NGO 支援事業の周知と応募をおこなった。アユスが支援事業を通して目指すものを伝える機会となった。（8/2、8/8）

・ジェンダー研修

2023 年度に開発教育協会が制作した「教育をジェンダー視点で見直すヒント集」を活用したワークショップを仏教 NGO ネットワーク、築地本願寺で実施する調整をした。

・断熱 DIY

パワーシフト・キャンペーン運営委員会による断熱の取り組みを、つくろい東京ファンドを対象におこな

うことに資金面からも協力した。それが、上記報告会にもつながっている。

2) ネットワーク推進

▼報告

- ・支援事業に関する問い合わせは今後の支援事業に生かすようにしているが、相談を受け付けた内容についての蓄積・発信は行わなかった。
- ・参加しているネットワークには積極的に参加し協力するよう努めた。
- ・専門委員（理事）とともに、ジェンダー研修を寺院、仏教系グループに紹介した。
- ・寺院会員が関心を持ちそうな他団体のイベントの紹介や、アユスの企画を案内して参加してもらうように努めた。Tera Energy とは相互に相談できる関係を築いている。

（1）NGO・寺院・市民ネットワーク

- ・能登地震に際しては、パートナーNGO、専門委員、会員からの情報をもとに支援先を決定した。被災した会員さんと NGO の連携による自主企画のセミナーも開催された。

参加しているネットワークの動き

●仏教 NGO ネットワーク（BNN）

- ・仏教系 NGO に若手が関わる契機をつくるため BNN 参加団体への訪問を計画。加盟団体のスタッフを対象にしたジェンダーワークショップを開催。
- ・BNN 定期講演会「能登の声を聞く一発災から半年被災地寺院のこれまで」(7/2) 講師：大橋学修さん・山根陽一さん（文化時報）、市堀玉宗さん（輪島市興禅寺）
会場：慈母会館（東京都新宿区）＋オンライン配 信
- ・BNN 定期講演会「ジェンダーについて気づきを得るワークショップ」講師：中村絵乃（開発教育協会事務局長・アユス理事）、会場：慈母会館（東京都新宿区）

●NGO 非戦ネット

国際協力の「非軍事原則」を堅持するため、政府安全保障能力強化支援(OSA)で軍事支援が不可能にならないようなアドボカシー活動を継続、報告会開催に協力。

- ・NGO 非戦ネット報告会「軍事化する国際協力に NO！～戦争リスクを高めるフィリピンとの「準同盟」」(9/18@衆議院第一議員会館)

●KOREA こどもキャンペーン

大学生世代の交流事業と子ども絵画交流事業がふたつの柱になっている。統一の目標を取り下げた北朝鮮の方針転換の流れが活動にも影響を及ぼし、交流が更に困難になるなかで新たな道筋を探った。「東アジア大学生ピースフォーラム」は、大阪の団体との協働もあり、日本人学生だけではなく社会人や在日コリアンにも参加者の枠を広げた。また、絵画交流における韓国のパートナー団体が主催するフォーラムに学生と参加し、分断の克服を経験した世界各国の参加者と交流した。

- ・東アジア大学生ピースフォーラム

キックオフミーティング(9/13@日本国際ボランティアセンター)、ETV 特集「悲劇の島済州～4.3 事件と在日コリアンの記録」鑑賞会(10/18@JVC、11/12@オンライン)、金時鐘講演会に向けた勉強会(1/18@JVC、1/24・1/27・2/2@オンライン＝いずれも「考える会-大阪」と共催)、金時鐘講演会(2/8@東成区民センター)、大阪フィールドワーク(2/9@鶴橋・天王寺)、東京フィールドワーク(3/29@三河島)

- ・南北コリアと日本のともだち展実行委員会

「グローバル青年平和フォーラム」(8/22-27@韓国麗州・順天)、「ともだち展の日」(12/7@ウェスレー財団)、さいたま展ギャラリートーク(12/21@さいたま市市民活動サポートセンター)、ミニ展示会&子ども

も向けワークショップ(12/23@YMCA 東とつか学童クラブ)

(2) 交流

- ・関西交流会では、フィールドスタディで生野区を再訪した。
- ・東海交流会が数年にわたって実施できていない。
- ・ランチトークは2回の実施にとどまった。

活動内容

- ・NGO ランチトーク
「組織をより活性化させるために何が必要か？」(4/11)、「NGO にとっての開発教育とは？」(5/16)
- ・関西地区交流会「多文化の居場所づくりに挑戦！～いくのパークの取り組み」(7/8、会場：大阪市鶴橋、コリアタウン、いくのパーク)
企画案内：宋悟さん（IKUNO・多文化ふらっと）
- ・哲学対話「戦争・いのち・平和——自分の言葉で語ろう」(3/7、会場：専光寺)
ファシリテーター 永井玲衣さん（哲学者）、霍野廣由さん（僧侶）

(3) 寺院／地域との協働

- ・物集めを通じた参加
バザー品がのべ40件（昨年43件）、切手・金券類のべ66件（昨年44件）。その後、募金寄付につながる例はまだ少ない。
- ・行事・寺市参加
 - 仏教会・教団関係の行事：八王子市仏教会はなまつり(4/3、@桑都テラス、八王子市)、真宗教団連合慶讃法要ごえんさんエキスポ 真宗教団連合(4/20、@築地本願寺、東京都中央区)、浄土真宗本願寺派東京教区青年僧侶協議会バザー(12/8@築地本願寺、東京都中央区)
 - 寺院・地域での行事：新倉山浅間公園桜まつり 正福寺その他(4/14、@富士吉田市)、泉福寺日フィル平和コンサート 泉福寺(4/21、@泉福寺、東京都江戸川区)、お施餓鬼 勝楽寺(5/17、6/17@勝楽寺、町田市)、経王寺アースデイ(9/22@経王寺、東京都新宿区)
 - 総会報告：八王子市仏教会(5/23、@八王子エルシィ 八王子市)／浄土真宗本願寺派東京教区仏教婦人会連盟(5/30、@築地本願寺、東京都中央区)
- ・清澄白河ピースマルシェ

APLA のカフェ・カーとともに NGO のフェアトレード製品や国内の有機農家の製品を販売。(4/28、6/30、9/28、10/26)

3) 開発教育事業

(1) ニュースレター

年次報告書を発行。ニュースレターの代わりに、四半期活動報告を定期的に作成・送付したいと考えていたが、年次報告書の発行時のみにとどまった。

(2) 施本

定期利用者は増えていないが、不定期利用が以前より増えている。

4) 普及事業

(1) グッズ販売

- ・グッズ販売は横ばい (23 年度：383,550 円→24 年度：379,200 円)、イベント出展の機会は増えている。大口利用や定期利用の寺院を広げるために、恒常的な呼びかけ案内が必要。
- ・アーユスグッズのチラシを更新し、年末募金のタイミングで寺院だけでなく個人にも案内を送付して周知したところ、小口注文が数件あった。

(2) 出版

実施せず

(3) 執筆・講演

月	テーマ	派遣・掲載先 ／派遣・執筆者
5	ジェンダーの視点で語る仏教者の社会実践	現代仏教の社会倫理に関する研究会@龍谷大学／枝木
5	アーユスは 20 周年を迎えました	BNN ニュースレター／枝木
7	10 月 7 日に武装勢力ハマスの奇襲攻撃によって始まった???ーガザ危機から考える紛争の始まり方と宗教	女たちの如是我聞／枝木

その他

- ・JANIC の NGO スタディプログラム応募相談 (井上)
- ・築地新報編集委員 (枝木)

3 組織運営・広報

1) 組織運営

- ・インターンシップは、受け入れには至らなかったが、仏教系大学や僧侶で先生の方と連絡を取った。
- ・事務局と役員との協働体制づくりは、NGO 支援事業で動いている。
- ・ビジョン／ミッション／バリューの確定については、事務局内で再度方向性を確認する。
- ・認定更新作業は 3 月までに終了した。
- ・会員総会

開催日：6 月 13 日

会場：長専院 (東京都江東区) + オンライン

議案：第一号議案 2023 年度事業報告・決算案

第二号議案 2024 年度事業計画・予算案

第三号議案 役員改選

その他 報告

- ・理事会 以下の通り滞りなく開催された

1 回目 5 月 21 日

第一号議案 2023 年度事業報告・決算案

第二号議案 2024 年度事業計画・予算の修正

2 回目 7 月 1 日

第一号議案 理事長および副理事長の選出

3 回目 9 月 25 日

第一号議案 アーユス NGO 対象 (茂田賞) 及び特別功労賞の受賞者決定

第二号議案 中期計画の振り返りと継続の是非について

4 回目 11 月 27 日

第一号議案 2025 年度 NGO ソーシャルチェンジ支援事業の対象先決定

第二号議案 2024 年度アユス NGO 新人賞の受賞者決定

第三号議案 2024 年度中間事業報告と中間決算案
5 回目 1 月 29 日

第一号議案 2025 年度『街の灯』支援事業の対象先決定

第二号議案 給与規程の改定等に向けて

6 回目 3 月 26 日

第一号議案 2025 年度ソーシャルチェンジ支援事業の継続支援申請審査

第二号議案 2025 年度『街の灯』支援事業の継続支援の申請審査

第三号議案 2026 年度事業計画・予算案

・寄付内訳（2025 年 3 月末現在）

	2024 年度
一般寄付	6,294,694 円
うち物資からの換金	777,214 円
結募金	1,076,500 円
指定：パレスチナ	134,844 円
指定：ウクライナ	77,000 円
指定：ミャンマー	12,000 円
指定：能登半島地震	3,455,491 円
新人賞（クラウドファンディング）	1,024,000 円
合計	12,851,743 円
物資	41 件

* 2024 年の指定寄附は按分前の参考値

2) 広報／ファンドレイジング／支援者対応

▼報告

- ・アユス賞（新人賞）のためのクラウドファンディングを実施し、1,024,000 円を達成。
- ・新たに緊急募金の呼びかけがなかった影響もあり、寄付の訴求力が落ちている。

これまでの緊急案件には大口寄付が寄せられたので、他の案件も含めて報告と継続した働きかけが必要。

- ・年間を通じたファンドレイジング計画や、予定していた取り組み（遺贈寄付の周知、30 周年の活用など）ができていない。
- ・新規協力者への働きかけに取り組めていない。
- ・無料イベントの申し込みの際にあわせて募っている寄付が定着しつつある。

・会員状況

入会者 5 名（個人 5 名）

退会者 8 名（個人 7 名。法人 1 名）

2025 年 3 月 31 日現在

特別賛助会員 25 人

法人会員 48 人

賛助会員 2 人

個人会員 176 人

学生 1 人

合計 252 人

決算報告（決算資料参照）

- ・当期正味財産増減額は、-4,512,703 円で赤字。
- ・正味財産のうち使途が決まっている寄付が約 700 万円。
- ・無指定の寄付金は 1,000 万円弱で横ばい。緊急募金がないために年末募金も小口が多かった。
- ・安定した運営のためにも会員もしくはマンスリーサポーター増加に取り組まないといけない。